

『十字架の遺言』 ～絶えず感謝と喜び～

1テサ5：10-24

木々が芽吹き、あちらこちらで春を感じられるようになりました。新しい環境で生活をスタートする人もいるのではないのでしょうか。新しくなるというのは時に大変だったり、くたびれたりします。ですから私たちはそのなかに喜びを見出していく必要があります。喜びがありますか。もしあなたが喜べない状況にいるならば、それはあなたの中にある「当たり前」に対する勘違いが原因ではないのでしょうか。この当たり前というのは何をもって当たり前なのでしょう。自分の価値観や経験から正しい・当然とするのではないのでしょうか。「当たり前」についてしてみると、この言葉を英語では「No Surprise（驚くことは無い）」と表現します。日本での表現と比べて、対自分と対皆という概念の違いを感じさせます。このことから英語圏では自分がどうかを重要視し、日本では皆がどうかを重要視していることが分かります。日本人である私たちは当たり前でないことを恥と受け取ってしまいます。そして自分にとって当たり前でないことをする人に対して怒ったり、傷ついたり、許せなかったりします。ではその基準はなんなのでしょう。私たちが生きていく中で人々が衝突しないための決まりごとに法律があります。法律はすべて聖書が土台になっています。法律は元々人々が赦し合い支えあうためにできたものです。しかし今は人を裁くためのものとなっています。あなたは「目には目を、歯には歯を」という言葉を聞いてどのように受け取るのでしょうか。目を取られたら、相手の目を取っていいと思っている人がいるかもしれません。しかし本来は目を取られても目以上のものは取ってはいけないという意味、つまりやられても相手を赦しなさい、あなたは赦すことを選択できるという意味なのです。受取手の概念によってずいぶん内容が変わってきます。ですから今日、私たちの中にある当たり前の概念をみて、何が正しいことを聖書をとおして学んでいきましょう。

今日の聖書箇所は1テサ5章から。ここではイエス様が十字架にかかったのはなぜかについて語っています。つまりこの箇所はイエス様の遺言ともいえるところなのです。

いつも主と共に生きるようにいわれていますが、教会に来てるときだけになっていませんか。この人だけは赦せないということがありませんか。互いに励ましあっていますか、徳を高め合っていますか・・・この中で14節の「気ままな者」とはいったいどういう人のことをいうのでしょうか。気ままな者はあなたの当たり前、価値観にあてはまらない人のことをあらわしています。あなたはそのような人を裁いていないのでしょうか。聖書ではそのような人を戒めるようにいっています。戒めるとはどういうことでしょうか。そのことは聖書が私たちの土台なので、自分の当たり前と一緒にであろうと違ってしようと聖書を土台として判断しなければいけません。そしてもし相手になにかやり返してしまったなら、その後には和解、神様の前に赦し合わなければいけません。またあなたに喜びがありますか。感謝と喜びがないとあなたを幸せにしようとされる聖霊様があなたと一緒にいることができません。ですから「喜び」「祈り」「感謝」しましょう。これは十字架にかかった神様の私たちに対する唯一の願いです。このこと簡単なことですが、それを私たちはなかなかできません。しかし、選ぶのはあなたです。人のせいにはできません。もし良いものを受け継ぎたいならこのみことばを相続しましょう。神が言葉によって創造したように言葉には力があります。口で告白したようになるのですから、良い言葉を選んで発していきましょう。

また、感謝するときに使うことば「ありがとう」は有難う=ありえないことが起きるときに使う言葉、つまり起きてはならないことが起きたときにも使う言葉なのです。ですからこれからはあなたの当たり前と思っていることが起こらなかったとき、それが良いことでも悪いことでも「ありがとう」と感謝しましょう。なぜなら、もしあなたが人を待つのが嫌いだったとき、あなたは相手が遅れたことに腹を立てることもできますが、その人を忍耐によって待つことができたことと喜びこともできるのです。うそをつかれたなら、それで落ち込むこともできますが、うそをついた人を赦すこともできるのです。ここから、ありがとうの対義語が当たり前であることが分かります。自分の考えが正しく、それを当たり前としてしまうと感謝ができなくなります。ルカ17：7-19にあるツアラアトに冒された人たちの話からも分かるように本当の感謝を見出せるの者はわずか(1/10)なのです。しかし今日、私たちは言葉も言い様、選び様であることを教わりました。聖書の教えを実践、イエス様に従っていけばかならず成功し、結果がついてきます。ですから今後は喜ぶほうを選びましょう。感謝できないようなときも感謝します、ありがとうと言ってしまいましょう。自分が悪くなくてもごめんなさいといひましょう。私たちは謝ることで勝ちを得ることができるのです。

ですから、イエス様の十字架を覚え感謝と喜びのために大切なことは、**1. 犠牲を知る～イエス様の犠牲～** 私たちは赦されました。イエス様の犠牲のことを思えば、受け入れることができるようになったのです。**2. 痛みを知る～イエス様の思いの一部を知る～** 私たちが痛みと苦しみの中をとったとき、それぞれの人の最大限でイエス様の十字架を担いました。そしてイエス様は十字架でいのちを分けてくださいました。憎しみにしていたらなにも変わりません。しかし痛かったと神様の御前に出れば私たちは癒され赦されます。そして自分を大事にできます。自分のために赦すことができるようになります。ですからこれからも痛みを力とし、いのちを握って歩みましょう。**3. 当たり前の削除～人の行為に当たり前を見ない！！～** これによってあなたのうちにいつの間にか憎しみがなくなり、結果あなたは幸せになるのです。

私たちは苦しみの中にあっても「ありがとう」といえるようにされました。問題があってもイエス様によって贖われたといえるようされました。ですからあなたのために死なれたキリストに感謝しましょう。そして、これからは赦せなかったことを赦し、愛せなかったことを愛そうとしましょう。悪かったことを認めてごめんなさいと言ひましょう。そうすればあなたをとおして周りが変えられます。悲しみや痛みを神様に委ねて、神様の痛みや愛をもっと知ることができるようにし、みんなに喜びを伝えていきましょう。相手に自分の当たり前を強要していた自分を今、変えましょう。聖霊様と共にあり、イエス様の十字架の恵み、愛を選んでいきましょう。(要約者：金光 瞳)